



日本音楽教育学会ニュースレター

目 次

| | |
|---|--------------|
| 1. ご挨拶 | |
| | 山本文茂 ----- 2 |
| 2. 報告・お知らせ | |
| 2-1 平成 18 年度第 1 回常任理事会・理事会報告 | ----- 3 |
| 2-2 平成 18 年度第 1 回編集委員会報告および 「音楽教育実践ジャーナル」Vol.4 no.2 (通巻 8 号) 特集・原稿募集 | --- 9 |
| 3. 大会のご案内・報告 (日本音楽教育学会関係) | |
| 3-1 平成 18 年度全国大会 (千葉大学) のお知らせ | ----- 10 |
| 3-2 「妙高ゼミナール」報告書の販売について | ----- 12 |
| 4. 海外トピックス | |
| 4-1 The Suncoast Music Education Research Symposium | ----- 13 |
| 4-2 APJAE (香港) が APSMER の準機関誌に | ----- 13 |
| 5. 国内トピックス | |
| 5-1 「WFAE 世界音響生態学フォーラム 2006 in 弘前」のお知らせ | --- 14 |
| 5-2 「音楽療法国際シンポジウム in Sakuyo」のご案内 | ----- 14 |
| 5-3 「日本学校音楽教育実践学会第 11 回全国大会」のご案内 | ----- 15 |
| 6. 会員の動向・活動 | |
| 6-1 「多文化音楽教育 2006 シンポジウム in 京都」報告 | ----- 16 |
| 6-2 その他 (会員の人事移動など) | ----- 17 |
| 7. お知らせ 「日本音楽教育学会第 3 回夏期ワークショップ in Tokyo」 会場変更のお知らせ | ----- 18 |
| 編集後記 | ----- 19 |

1. ご挨拶

1999-2001 年度会長 山本文茂



東京藝術大学で最終講義をおこなう山本（元）日本音楽教育学会会長

会員の皆様お元気でいらっしゃいますか。私はこの春東京藝術大学を定年退職し、4月から名古屋芸術大学契約教員（教授）として週二日の勤務をしております。契約期間は3年間で、コマ数も少なく、「音楽教育史」「音楽教育の理論と実践」「卒業論文指導」などの講義資料作りを楽しみながらやっております。

思い起こせば1975年に本学会に入会してから30年間、学会誌編集委員をはじめとして理事・ゼミナール実行委員・常任理事・会則検討小委員会委員・教育課程研究推進委員・副会長・編集委員会規定検討委員・会長・拡大事典編集委員など、先輩諸氏の温かいご指導のもとにたくさんの仕事をさせていただきました。おかげさまで音楽教育という営みを広い視野から考えることが出来るようになり、とても良かったと思っています。

22歳で高校教員になって15年、37歳で大学教員になって30年、この長い音楽教育活動を通して、いつも考えてきたことは、音楽授業における「理論と実践の統一」という問題でした。退職を節目にこの

大問題に何らかの見通しをつけたいという思いに駆られ、3年前に共同研究「日本の音楽教育学の再構築に関する基礎的研究」を立ち上げ、30余名の仲間と年3回の研究例会を重ねてきました。そのひとつの締めくくりとして本年3月、独立行政法人・日本学術振興会に同名の分厚い報告書を提出しました。

一般教育、専門教育を問わず、音楽教育の根本的課題は、さまざまな音楽活動の介在として学習者の音楽的・人間的成長を実現することであると考えます。そうした音楽教育の場は、家庭・学校・地域社会など様々であり、多岐にわたっています。しかし、そこで行われてきたこれまでの音楽教育の理念・目標・計画・内容・教材・方法・評価の全体を貫く教育実践の具体について、わが国の歴史を振り返り、欧米・近隣諸国の動向を見渡してみると、いくつかの重要課題が浮かび上がってきます。すなわち、

- ・学びを広げ、つなぎ、全体としてまとまりをつける授業（学習の総合化）
- ・学びを深め、いつも自分らしさを確かめ

- ていく授業（学習の本質化）
- ・学びの楽しさと喜びをみんなで分かち合う授業（学習の共有化）
 - ・これから先もずっと音楽を学び続けていこうとする授業（学習の継続化）
- という四つの課題です。

本共同研究はこの4方針について、授業実践を見据えた理論の構築に挑んだものです。会員の皆様をはじめとして、音楽教育

に携わる日本の関係者の皆さんにも、これらの根本問題についてお考えいただき、音楽軽視と学校音楽縮減の風潮に歯止めをかけていただきたいと思います。音楽無くして人間の調和的成長・発達はあり得ないからです。

会員の皆様のご活躍と学会のいっそうの進展を心から祈念しています

2. 報告とお知らせ

2-1 平成18年度 第1回常任理事会・理事会報告

日時：平成17年5月14日（日）14：00～18：10

会場：東京学芸大学 音楽講義室第1

出席：今川・岩崎・小川（容）・奥・加藤・木村・熊木・小山・阪井・佐野・篠原・島崎・嶋田・田邊・坪能・寺田・中山・降矢・南・宮野・村尾・安田・（五十音順）

欠席：井口・岩井・山本・若尾

担当報告：伊野（妙高ゼミナール）

事務局：岩淵・柴崎・中村

【報告事項】

1. 妙高ゼミナール報告（伊野実行委員長）

報告書完成の報告がなされた。

2. 会務報告（小山）

平成18年2月20日以降の会務報告がなされた。

3月31日（金） 音楽教育実践ジャーナル Vol. 3. No.2・ニュースレターNo.23 発送

4月20日（木） 第37回大会共同企画公募締切

4月30日（日） 音楽教育関係文献リスト申請締切
学会運営検討委員会（静岡大学）

5月14日（日） 平成18年度第1回編集委員会（東京学芸大学）

この他、事務局スタッフが紹介され、事務局運営の現状と、科学技術振興機構電子アーカイブ事業へ応募することが報告された。

3. 各種委員会報告

（1）学会運営検討委員会（村尾）

会長からの諮問事項に対し、本日付で委員長から会長に答申した。→審議事項

(2) 学会誌検討委員会（加藤）

韓国音楽教育学会との論文交流に関する諮問について、会長に答申した。→審議事項

(3) 国際交流委員会（奥）

- ・ ISME への取り組みが現在の課題。各理事には、大会参加ツアーへの呼びかけをお願いする。
- ・ 学会 HP 上で、海外との情報交換を行う予定で、準備を進めている。使用言語は英語。翻訳にかかる経費、人選、翻訳の範囲、更新の頻度などについて検討中である。

(4) 編集委員会（木村）

- ・ 編集委員の交代：藤田委員から辞任の希望があり、残任期間（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）については、小川昌文氏に交代した。
- ・ 『音楽教育学』と『音楽教育実践ジャーナル』への応募と査読状況の報告（編集委員会報告を参照）。ジャーナル vol.4 no.1 は現在編集が進んでいる。vol.4 no.2 は「子どもと音楽環境」が特集テーマ。募集の詳細は、ニューズレターと HP で広報する。
- ・ 『音楽教育学』の充実にむけて、書評、海外の研究紹介（海外の研究者へ原稿依頼）などについて検討中。
- ・ 『音楽教育学』念校の担当者を、関東地区以外の委員にもお願いすることとし、宅配便でやりとりする。
- ・ 投稿規程について、若干の見直し、文言修正を検討中。

(5) 音楽文献目録委員会

4 月 1 日に本年度第 1 回の委員会が開かれ、山下委員から議事録が提出された。なお、本年度から業績申告がメールでの受け付けとなり、事務作業が簡素化された。現在編集作業中である。

(6) 40 周年記念論文集編集準備委員会（今川・佐野）

1 巻本で発行する。全体のテーマは「音楽教育の存在意義」（仮）とし、5 ないし 6 の部門を設けてそれぞれの編集委員を決め、論文を公募して、編集委員が当該部門における研究レビューを含めたコメント論文を執筆する。

各部門は、論文 2 本とコメント論文によって構成する。これからのスケジュール、人選については、準備委員会で検討し、千葉大会総会に諮った上で編集委員会を立ち上げる予定。

4. 各地区例会報告

各地区理事より、報告があった。詳細は、『音楽教育学』第 36 巻第 1 号に掲載。

5. 第 37 回大会（千葉大会）について

今年度は、音楽学会と日程が重複した。多くの学会が秋に開催されるので、重複を避けることは難しいが、次年度より音楽学会とはなるべく日程調整を図りたい。

- ・ 大会実行委員会から（宮野）

10 月 28 日・29 日に、教育学部で開催すべく準備を進めている。多くの参加者にお越しいただきたい。

- ・ 企画担当から（島崎）

<プロジェクト研究>

①「伝統音楽」（仮題）（第1年次）

②「学力論争と音楽教育—音楽科におけるくゆとりの教育>は子供たちに何をもたらしたか」（第2年次）

なお、村尾理事より、②については科学研究費申請が認められ、学会予算からの支出を辞退するとの申し出があった。

<共同企画>

異文化理解を踏まえた多文化音楽教育の指導方法の提案と検証Ⅲ—心の教育としての多文化音楽教育 小学校・養護学校から大学教育まで—（代表者：降矢美彌子）

6. 第38回（岐阜）大会について

2007年11月10日・11日の開催をめざしている。千葉大会総会までに実行委員長を決定し、総会で挨拶を行う予定である。

7. 第9回音楽教育ゼミナールについて（坪能）

日韓共同開催のゼミナールを、2008年1月末を候補として開催すべく、韓国音楽教育学会との調整を進める。

【協議事項】

1. 平成17年度会計決算報告及び監査報告（今川・奥会計担当）

資料にそって会計報告、監査報告が行われ、承認された。前年度までと比較して、収支は改善している。

2. 平成19年度事業計画案及び予算について（小山事務局長・今川会計担当）

<平成19年度事業計画（案）>

| | |
|-----------|--|
| 平成19年5月中旬 | 平成18年度会計監査 平成19年度第1回編集委員会 平成19年度第1回常任理事・理事会 |
| 6月初旬 | 大会共同企画・研究発表（口述）申し込み締切 |
| 6月下旬 | 学会誌第37-1号発行・ニュースレターNo.28 |
| 7月上旬 | 平成19年度第2回常任理事会 研究発表受理通知 |
| 7月 | 平成19年度第2回編集委員会 |
| 8月下旬 | 音楽教育実践ジャーナル Vol.5. no.1発行 ニュースレターNo. 29・大会プログラム |
| 11月 | 第3回編集委員会 第3回常任理事会・第2回理事会 第38回大会 会場：岐阜大学 |
| 12月下旬 | 学会誌第37-2号発行・ニュースレターNo.30 |
| 平成20年1月末 | 日韓共同ゼミナール |
| 2月初旬 | 平成19年度第4回編集委員会 |

平成19年度第4回常任理事会
3月末日 音楽教育実践ジャーナル Vol.5. no.2発行
ニューズレターNo.31
平成19年度会計決算

平成19年度予算(案)について、会議費の減額、宿泊費の廃止、事務局体制整備に伴う事務局運営費の増額と人件費の減額、実態に即した例会運営費の減額等を含む提案がなされ、承認された(予算案は第37回大会プログラムに掲載予定)。なお、会費未納の会員が多く予算作成の上で問題を生じており、早期の納入を促す必要が確認された。

3. 交流協定学会との論文交流について

交流協定学会(現在は韓国音楽教育学会のみ)との論文交流について、学会誌検討委員会からの答申に基づき、以下の審議がなされ、承認された。

① 論文相互交流の推進について

双方の学会から、相手学会の学会誌に論文を掲載すべく、交流の体制を整えていく。

② 『音楽教育学』ならびに『音楽教育実践ジャーナル』への掲載について

原稿は、原則として交流協定学会から推薦されたものに限る。

交流協定学会から推薦された原稿は原則として無条件で学会誌に掲載する。

これに伴い、編集委員会規程に以下の改訂が必要である。

第2条 この委員会は、「音楽教育学」および「音楽教育実践ジャーナル」の編集を行う。

(新規) (7) この他、海外の交流協定学会から推薦された原稿を掲載する。

③ 原稿について

使用言語は原則として英語または日本語とする。

その他、分量、掲載本数の上限等は、『音楽教育学』投稿規程ならびに『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程に準ずるものとする。

4. 地区割り及び選挙制度等の改革について

学会運営委員会からの答申を受けて、以下の4点を審議した。①～③については挙手による票決の結果賛成多数で、④は審議の結果可決し、千葉大会総会の議案として提出されることとなった。

① 会長・副会長選挙について

会長の被選挙権者は、10年以上の会員歴を有し、理事の経験がある者とする。

副会長は1名とし、会長が理事の中から指名する。(** 会長経験者の被選挙権については「会則改正委員会」に再検討を依頼する。)

② 地区割りおよび各地区選出理事数の変更について

全国を、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国・四国、九州の8ブロックとする。理事の定数を20名とし、各地区の理事数は北海道1、東北1、関東8、北陸1、東海2、近畿3、中国・四国2、九州2とする。

③ 役員任期について

役員任期は1期2年とし、再任を妨げない。ただし、連続して就任する場合は、2期までとする。

④ 自然退会の年数規定について

会費を2年間滞納した者は、会員の資格を失う。(現行3年)

5. 会則

学会運営検討委員会から資料に基づく提案がなされ、メールによる審議、次回常任理事会での継続審議となった。

前項の答申と提案をもって学会運営検討委員会は本日付で解散し、同じメンバーにより、会則改正委員会に切り替えることが承認された。

6. シニアの大会参加費割引制度について

満70歳以上の会員から、会費および大会参加費について割引の可能性がないかとの質問が寄せられた。これを受けて、参加費割引の可能性がないかが審議されたが、会員資格と連動する問題であるとして、今回は見送られた。

7. 理事の勤務地異動に伴う措置について

山本文茂理事：関東地区(変更なし)

小川昌文理事：北陸地区から関東地区へ異動のため理事を辞任。

小川昌文氏に代わり、北陸地区理事を中山裕一郎氏に委嘱。

8. 参事制度について(坪能)

以下の方々に、参事をお願いすることが承認された。

(任期 2006年4月1日～2008年3月31日)

ベ ミンキョン

| | | |
|--------|-------------|-------------------|
| 裴 珉卿 | (日本女子大博士3) | 交流協定学会関係, その他会長関係 |
| 大石 あゆ美 | (東京学芸大修士修了) | 企画 |
| 藤波 ゆかり | (東京芸術大修士修了) | 企画 |
| 大沼 覚子 | (東京芸術大修士2) | 会計, 総務 |
| 夏目 佳子 | (愛知教育大修士2) | ニュースレター |
| 間瀬 三奈 | (愛知教育大修士1) | ニュースレター |
| 駒 久美子 | (日本女子大博士1) | 事務局長関係他 |

9. 事務局長補佐について

齊藤忠彦氏に事務局長補佐を委嘱することが承認された。

10. その他

学会賞, 院生を中心とするポスターセッションを奨励するためのスポンサーシップの可能性について, 意見交換がなされた。

11. 新入会者及び退会者の承認

新入会員22名が承認された。

＜正会員＞

| | | |
|------|--------|-------------------|
| 3321 | 小川 顕人 | 横浜国立大学大学院 |
| 3322 | 渚 智佳 | (財)ヤマハ音楽振興会 音楽研究所 |
| 3323 | 本廣 明美 | 山口芸術短期大学 |
| 3324 | 加藤 照恵 | 山口芸術短期大学 |
| 3325 | 金子 弥生 | 横浜国立大学大学院 |
| 3326 | 山下 美紀 | 洗足学園大学(学生会員) |
| 3327 | 青山 優里子 | 千葉大学大学院 |
| 3328 | 宮内 美由紀 | 鳥取県大山町立大山小学校 |
| 3329 | 山口 かおり | 国立音楽大学大学院 |
| 3330 | 吉野 巖 | 北海道教育大学札幌校 |
| 3331 | 三島 わかな | 沖縄県立芸術大学 |
| 3322 | 滝浪 えま | |
| 3333 | 藤井 貞子 | 就美短期大学 |
| 3334 | 橋本 久美子 | 東京藝術大学 |
| 3335 | 斎藤 真 | 上越教育大学大学院 |
| 3336 | 今井 悠太 | エリザベト音楽大学大学院 |
| 3337 | 城 佳世 | 飯塚市立片島小学校 |
| 3338 | 茂木 美和 | 武蔵野音楽大学大学院 |
| 3339 | 呉 艶輝 | 聖徳大学大学院 |
| 3340 | 仁志 智加 | 大阪府交野市立旭小学校 |
| 3341 | 鈴木 範之 | 東京学芸大学大学院 |
| 3342 | 有村 さやか | 小田原女子短期大学 |

＜申し出退会者＞（平成 17 年度）

| | | |
|------|--------|--------------|
| 0030 | 佐藤 幹一 | 東京学芸大学 |
| 0695 | 宇佐美 桂一 | 横浜国立大学 |
| 0987 | 大月 玄之 | 東京音楽大学 |
| 1184 | 片山 峰緒 | 岡山県立新見北高等学校 |
| 1321 | 土井 浩 | 富山女子短期大学 |
| 1938 | 椎野 伸一 | 東京学芸大学 |
| 2124 | 山中 富士子 | 杉の子保育園 |
| 2284 | 太宰 信也 | 千葉市立さつきが丘中学校 |
| 2715 | 向井 登子 | 埼玉大学大学院 |
| 2872 | 菅原 拓也 | 宮城県立石巻女子高等学校 |

自然退会者 58 名

5 月 10 日現在 正会員数 1525 名

次回常任理事会

平成 18 年 7 月 2 日（日）14:00 より 日本女子大学

学会誌編集委員会 委員長 木村次宏

平成 18 年 5 月 14 日(日)に、東京学芸大学において、平成 18 年度第 1 回編集委員会を開催し、以下の事項について協議した。

1. 再投稿原稿の査読状況について
「音楽教育学」-2 件, 「音楽教育実践ジャーナル」-1 件
2. 投稿原稿の査読結果について
「音楽教育学」-2 件
3. 投稿原稿(4 月末日締切分)の担当者及び査読者の決定について
「音楽教育学」-4 件, 「音楽教育実践ジャーナル」-1 件
4. 「音楽教育実践ジャーナル(通巻 7 号)」の進捗状況等について
5. 「音楽教育実践ジャーナル(通巻 8

号)」の内容等について

6. 今年度の学会誌発行の予定等について
7. その他

＜お知らせ＞

編集委員会からのお知らせを、学会ホームページに掲載させていただいております。投稿原稿募集の案内等についてご参照下さい。

『音楽教育実践ジャーナル』 Vol.4 no.2 (通巻 8 号)特集・原稿募集

『音楽教育実践ジャーナル』通巻 8 号(2007 年 3 月発行)の特集に向け、下記の要領で原稿を募集いたします。

現代に生きる子どもの日常生活は、まったくの静寂の中で、自然界の音だけに身をおくことは、非日常的であり稀なことになってきました。音楽に限らず、意識的・無意識的にたえずさまざまな音波によって生じる「音」を耳にして過しているといっても過言ではないでしょう。

では、子どもはこうした音をどのように

感じているのでしょうか。

私たちは音をきくとき、「心地よい」ものとして感じたり、あるいは不快なものとして捉え、程度は違うものの「感情」にそって受けとめています。音響学の分野では、「音」に対する心理的影響について、多くの測定と様々な議論の中から「快-不快」を基本方向とした軸(次元)が提唱され、騒音についての心理的影響などでも活用されてきました。とりわけ騒音については、その音に対する個人差(音に対する感受性)が示されてきました。また、「音環境

が存在するその場を越えた絶対的快適音環境はない」（難波 1990）と文化差があることも示されています。

幼児教育では「音楽」という枠組みを離れ、たとえば自然の音に目を向ける保育が行われたり、地域の中で子どもが「音」と関わる姿を保育活動に取り入れたりなど、子どもを取り巻くひとつの環境として「音」を捉えた教育活動や教育実践がなされてきています。

また一方、園舎や校舎の設計プランが近年既存のスタイルから大きく変わり、「オープンプラン」が取り入れられたものが見られるようになってきました。このことは、教育活動や保育のスタイルを自由にし、一定の成果をもたらしているものの、音の面からは騒音環境になっているという問題点も指摘されています。

そこで、今回の特集は、1) 現在の子どもがおかれている音環境の実状を知る、また、2) 学校園で音環境と音楽に関わった取り組みの実例を知る、ことでこれからの子どもの音楽教育のありかたを考えるものとしたいと思います。

なお、ここでいう「音環境」は、子どもたちが育っていく中で、日常の子どもを取り巻いている状況すべての、広義のものを指します（ただし、私的な学習やお稽古などを含まないこととします）。

学校教育場面だけに限定しないことで、広く音に関わった「環境」教育や「音楽的取り組み」について原稿を募集します。会員の皆様の投稿をお待ちしています。

●特集タイトル：「子どもと音環境」

●投稿原稿締切：2006年10月末日必着

投稿の際には、特集への募集原稿であることを必ず明記してください。

（編集の都合上、締切の時期が早くなっていますのでご注意ください。）

●その他：書式、字数等は『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定をご参照ください。採択された原稿については、編集委員会から11月末日までに投稿者に連絡いたします。

編集委員長 木村次宏

3. 大会のご案内・報告（日本音楽教育学会関係）

3-1 第37回全国大会(千葉大会)のお知らせ

大会実行委員会委員長 宮野モモ子（千葉大学）

日時：平成18年10月28日（土）29日（日）

場所：千葉大学 教育学部（千葉市稲毛区弥生町1-33）

*** 教育学部は西千葉地区となります。

今年の大会は海と空の青さが目にしみる日本の最南端・沖縄の地から東へと移動致しまして、関東は千葉県での開催となりました。房総半島を南に一時間も下りますと、太平洋に囲まれた温暖な地域が広がり、九十九里浜などのどかな海の風景が広がってまいります。また地域によっては江戸情緒が残った町並みもみられます。

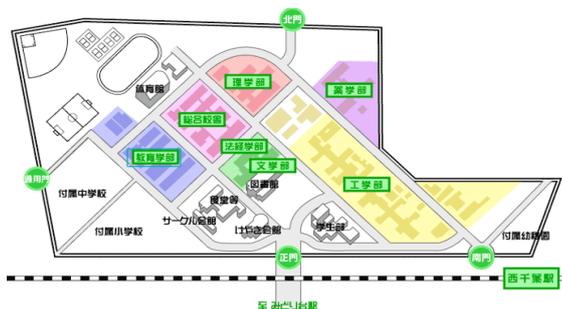
一方、東京に隣接しているため、都心への交通の便もよく商業スペースが広がっています。今会場はそうした千葉県の入り口に当たる JR 総武線千葉駅の一つ手前、JR 西千葉駅の目の前に位置する千葉大学、その教育学部棟を中心に展開することになりました。

今回の大会ではわが国の教育改革の最中であることを視野に入れながら、基調講演とシンポジウムを一体化できるよう工夫したいと思っています。基調講演では文部科学省初中行政関係の方に依頼中であり、続

くシンポジウムには音楽教育関係者の他、教育行政や民間関係者など音楽教育分野の外からの方にもお話しいただき、音楽教育への期待・要望等もいただきながら、これからの日本の音楽教育のあり方を探るようにしたいと思っています。いずれも人選中ですので、次回のニュースレターでは詳細についてお伝えできる予定です。また、今回も若手研究者として院生による企画もあり、千葉大学学生サークルによる演奏も予定しています。大会に参加して下さった方々にとって、よかったと思っていただけるような大会となるよう、大会実行委員会スタッフ一同、一生懸命準備をして参りたいと存じます。

どうぞ多くの意欲的なご発表をお待ちいたしていますとともに、臨時会員など新しく仲間になって頂けそうな方などもお誘いあわせの上、多数のご参加をお待ちいたしております。

千葉大学へのアクセス



お手元に一冊 「妙高ゼミナール」を！

妙高ゼミナール実行委員長 伊野義博

妙高ゼミナールは何をなし得たのか。報告書は何を伝えているのか。一言で言うのは難しい。例え言い得たとしても、すぐさま他の見方が立ち現れるだろう。きわめて多様な内容が、しかも様々な主張・観点から報告・実践されているからだ。実際150 ページにも及ぶ報告書は、講演、ラウンドテーブル、ワークショップ、パネル・ディスカッション等々目白押しだ。

当然のことであるが、それぞれの企画がどのようなものであったかを知るだけでも、読者の興味を十分に満足させることができるだろう。

しかしそれにもまして重要なのは、本報告書が「音楽教育」に焦点を当てた2005年9月の日本における実践や研究の「記録書」でもあるということだろう。この時点における音楽教育の状況が、参加者の苦悩や展望をも抱き込んで書き残されている。こうした「時代の切断面」として本書を捉えた時、読み手にとって新たな意味が立ち現れてくる。流れゆく時の中で、一瞬立ち止まって全体を見回す。そうした行為の生

み出す成果は大きい。

ゼミナールはもちろん参加し活動することに意義がある。しかし、活字化された報告書から我々は新たな意味を見出すことが可能だ。紙面として起こされたものであるからこそ、すなわち文字化され纏められたという性質であるが故に、本書はそれを手にした全員に新たな発見をもたらすに違いない。

冒頭基調講演において、Jorgensen氏は、音楽教育に関わるすべての人が「問う」・「問い続ける」ことの重要性を主張した。また Fung氏は、イーミックとエティックを組み合わせ、音楽教育の新しい形を創造することを薦めている。例えばこのことを軸に読み進めるだけでも楽しい。

お手元に一冊、是非「妙高ゼミナール」報告書を。

日本音楽教育学会 第8回音楽教育ゼミナール“2005”
妙高ゼミナール「音楽教育の実践と研究の新たな展望」報告書

1冊2000円、送料210円

お申し込みは、事務局まで。

4. 海外トピックス

4-1 The Suncoast Music Education Research Symposium



「妙高ゼミナール 2005」で基調講演をおこなった Victor Fung 氏から上記シンポジウムの案内がありました。日本の音楽教育研究者の皆様には格別に参加していただきたいようです。

日時：2007年2月1-3日

開催地：South Florida 大学,
フロリダ州 Tampa
発表申し込み：

2006年8月1日締め切り
詳細は Web をご覧ください。

<http://smers.arts.usf.edu/>

4-2 APJAE 誌が (香港) APSMER の準機関誌へ

香港を拠点とするアジア・太平洋地域の音楽教育 (芸術教育) 研究誌 *Asia-Pacific Journal for Arts Education* が APSMER (アジア・太平洋音楽教育学シンポジウム) の機関誌的な役割を果たすようになりました。2006年4月号 APJAE のゲストエディターは Steven Morrison (ワシントン大学)。彼は APSMER 2005 シアトル大会の実行委員長です。2006年4月号 APJAE は APSMER での発表論文の中から選別して掲載しています。シアトル大会 2005 の後、APSMER は香港教育大学に

事務局を置いて運営をすることになりました。(事務局長 Jane CHEUNG-YUNG, Wai Yee) APSMER と APJAE の関係はいつそう緊密になったと言えます。近日中に APSMER 公式 Web が公開され、2007年バンコク大会の Web とリンクされるはずです。

APJAE 誌の購読、投稿申し込みは編集長の Bo Wah Leung のアドレス：
<bwleung@ied.edu.hk>に直接メールしてお問い合わせください。

APSMER の公式サイト



5. 国内トピックス

5-1 WFAE 世界音響生態学フォーラム 2006 in 弘前のお知らせ



今田匡彦（大会実行委員長，弘前大学）

カナダを代表する作曲家で、サウンドスケープの提唱者である R. マリー・シェーファーの還暦を祝い、1993 年に発足した World Forum for Acoustic Ecology（世界音響生態学フォーラム）の 2006 年度国際会議が、弘前大学教育学部附属国際音楽センター（HIMC）と日本サウンドスケープ協会国際委員会（JASE）の共同主催により、11 月 2 日から 6 日に弘前大学で開催されます。シェーファー自身と、生態人類学者杉山祐子氏（弘前大学教授）による基調講演、シンポジウム“The West Meets the East: Physical, Spiritual and Postcolonial Perspectives of Acoustic Ecology”，並びに、

学際領域としてのサウンドスケープに関連する、音楽教育、地域研究、音響学、社会学、音響学、騒音制御、聴覚心理、建築学、造園学、土木工学、都市計画、民族学、人類学、メディア・コミュニケーション、都市工学、環境工学、環境教育などの研究発表、及び、作品発表が予定されています。また、津軽地域へのツアーも行われます。尚、サウンドスケープ関連としては、今回が非西洋圏で開催される初めての国際会議（使用言語は英語）となります。詳細は以下のサイトを参照して下さい。

<http://www.saj.gr.jp/en/hirosaki/WFAE2006.html>

5-2 「音楽療法国際シンポジウム in Sakuyo」のご案内

くらしき作陽音楽大学 三好恒明

日時：平成 18 年 9 月 23 日（土）・24 日（日）

会場：くらしき作陽大学 藤花楽堂

趣旨：明確な理論的（医学的）基盤を持った音楽療法の研究と実践の発展を目指す。その第 1 人者として世界的に活躍するコロラド州立大学教授のタウト博士を招き、講演とシンポジウムを行なう。氏は、モーツァルト音楽院出身の優れたヴァイオリニストでもあり、その広範な分野にわたる豊

かな学識に基づいた研究と実践について紹介する。

内容：タウト博士による“神経学的音楽療法”の講演と博士ご夫妻によるビデオを用いた音楽療法実践のワークショップが中心となる。大会 2 日目の日本音楽療法学会日野原重明理事長とタウト博士のシンポジウ

ムでは、日米の音楽療法の現状について語っていただき、これからの課題や展望について検討する。コーヒブレイクでは、タ

ウト博士と参加者による直接の会話の機会を提供する。

日程：

| | | |
|-------|---------------|-----------------|
| 9月23日 | 10時00分～12時00分 | タウト博士講演 |
| | 13時00分～15時00分 | タウト博士講演 |
| | 15時00分～17時00分 | タウト夫妻によるワークショップ |
| | 17時30分～20時00分 | 懇親会 |
| 24日 | 10時00分～12時00分 | シンポジウム |
| | 12時00分～14時00分 | ランチタイムとコーヒブレイク |
| | 14時00分～15時00分 | 講演まとめ |

主催：くらしき作陽大学

共催：山陽新聞社

協賛：倉敷市国際文化交流財団

後援：岡山県医師会、岡山市医師会、倉敷市医師会、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、NHK岡山放送局、RSK山陽放送局、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会

問合せ先：くらしき作陽大学 音楽療法研究所 担当：赤松，菅原

(電話) 086-523-0827 (ファックス) 086-523-0811

(HP) <http://www.ksu.ac.jp/>

5-3 「日本学校音楽教育実践学会第11回全国大会」のご案内

大阪教育大学 小島律子

1. 開催日 2006年(平成18年)8月19日(土)・20日(日)
2. 場所 大阪樟蔭女子大学(大阪府東大阪市 小阪キャンパス)
3. 内容 課題研究「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」
ーその1 日本とカナダ国ブリティッシュ・コロンビア州との比較を通してー

この8月に刊行予定の「生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム」(学会編)を用いて新しい音楽の授業像を作っていくという課題に、諸外国の授業を視野に入れながら取り組みます。今年は第1年次として、カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州の革新的なカリキュラ

ムとの比較研究を、州の文部省芸術教科コーディネーターのAnne Hill氏を招いて、二部構成で行います。第一部では、Anne Hill氏に、カナダの音楽科カリキュラム「IRP-Fine Arts」について語っていただきます。第二部では、日本側から「生成を原理とする21世紀

音楽カリキュラム」にもとづいた授業実践を発表、カナダ側からは Anne Hill 氏に「IRP－Fine Arts」にもとづいた授業実践をビデオで紹介していただきます。

その他、学校音楽教育実践にかかわる 49 件の自由研究発表、ラウンドテーブル等の企画があります。また「現代音楽ワークショップ」も行われます。

6. 会員の動向 活動案内

6-1 「多文化音楽教育 2006 シンポジウム in 京都」報告

(2006. 3. 29 於京都教育大学附属桃山小学校)

降矢美彌子 (宮城教育大学)

多文化音楽教育 2006 シンポジウムは、多文化音楽教育研究会の主催で、2005 年 3 月福島で行われ、今回は、2 回目。多文化音楽教育の普及を目的として、多文化音楽によるワークショップと多文化音楽教育の授業実践によるパネル・ディスカッションを行っている。日本における多文化音楽教育の理念と指導法は、以下のように概念規定される。

多文化音楽教育の理念：学習者の文化的なアイデンティティの確立を目指しながら、日本国内にある多様な音楽文化や世界の諸民族の音楽文化を差別感なく受容する力を育成することを目的とする音楽教育。

多文化音楽教育の指導法：音楽を社会的・文化的な脈絡の中でとらえ、伝承者と文化本来の伝承法を尊重し、表現と鑑賞、構造や背景などの知的理解と創作的な活動を有機的に関連させて授業を組織し、音楽文化を育んだ人々の心情の理解を目指す指導法。

「多文化音楽教育 2006 シンポジウム in 京都」(実行委員長 藤田加代)は、下記の内容で行われた。次回、「多文化音楽教育 2007 シンポジウム in 東京」は、2007 年 3 月 17 日(土)東京学芸大学で、開催予定。徳丸吉彦氏の公演や福島コダライ合唱団の演奏会も予定されている。

第一部 ワークショップ

A コース ケチャ (降矢美彌子), アジアの竹楽器 (牧野淳子)
B コース 歌舞伎 (水池純子), サムルノリ (田中多佳子)

第二部 シンポジウム

基調講演 子どもたちの心を拓く多文化音楽教育 降矢美彌子 (宮城教育大学)

I. 多文化音楽教育授業実践のあり方

1. 地域の音楽文化と宮崎県椎葉村の音楽文化

山崎 純子 (福島県川俣町立福沢小学校)

2. 歌舞伎の授業

水池 純子 (仙台市立長命ヶ丘中学校)

3. 学校教育教材としてのプンムル

田中多佳子 (京都教育大学)

4. 竹筒からの授業展開

牧野 淳子（京都市立芸術大学）

II. 話題提供

台湾の原住民の音楽教材

奥 忍（岡山大学教育学部）



竹のワークショップ



ケチャのワークショップ

6-2 その他（人事移動など）

- * 冒頭の「挨拶」に述べられておりますように東京藝術大学の山本文茂氏が退官，名古屋芸術大学へ着任されました。
- * 後任として静岡大学の山下薫子氏が東京藝術大学に着任されました。
- * 上越教育大学の小川昌文氏が横浜国立大学に異動，着任されました。
- * 美作短期大学の佐藤倫子氏が岡山大学に異動，着任されました。
- * イギリス，ローハンプトン（University of Surrey, Roehampton）大学で研修中の水戸博道氏（宮城教育大学）が帰国されました。
- * ロンドン大学博士課程在籍の疇地希美会員が帰国されました。

***** ニュースレターに掲載する会員の活動，その他の情報を学会事務局までお寄せ下さい。本の出版，講演，人事移動，公募人事，学位取得など寄せられた情報をもとに掲載したいと思います。

7. お知らせ

「日本音楽教育学会第3回夏期ワークショップ in Tokyo」 会場変更のお知らせ

7月22日(土)～23日(日)に開催の「日本音楽教育学会第3回夏期ワークショップ in Tokyo」の会場が下記のように一部変更となりました。なお、参加お申し込みの方には、追って資料送付の際に会場案内図をお届けいたします。

第1日目

A：パフォーマンス・コース

2006年7月22日(土) 12時30分～17時00分

- ・タイトル：自然で自由な「こえ・ことば・うた・からだの表現」の探究
- ・ワークショップ・リーダー：大石哲史（オペラシアターこんにゃく座）

会場：12時30～14時00分

東京学芸大学音楽講義室第2

(芸術・スポーツ科学系研究棟2号館4F)

14時00～17時00分

東京学芸大学音楽科ホール

第2日目B：授業づくり・コースの会場については変更がありません。

なお、まだ若干の余裕があります。

参加希望の方は学会事務局までお問い合わせください。

編集後記

前回の ISME はカナリア諸島。緑の葉の上に真っ赤に燃え上がる花の群れが今なお脳裏に焼き付いている。ISME 事務局長の Judy が「あれは Flame tree と呼んでいるのよ」と教えてくれた。まさしく、燃え上がる炎のような花。今年も間もなく ISME 世界大会がマレーシア、クアラルンプールで開催される。クアラルンプールはこれまで何度か訪れたことがあるけれど、何度行っても知らない樹の花を見ながら歩くのが楽しい。今度は唯一知っている花、燃え上がる Flame tree に会えるのを心待ちにしている。

(村尾忠廣)



Flame tree (カラーでないのが残念)

【日本音楽教育学会役員（2005-2007年度）】

会長：坪能由紀子 副会長：岩崎洋一・加藤富美子

常任理事：小山真紀（事務局長）、佐野 靖・村尾忠廣（総務）

阪井 恵・島崎篤子・降矢美彌子（企画）今川恭子・奥 忍（会計）

岩井正浩（編集委員）

理事：寺田貴雄（北海道）、宮野モモ子・井口 太・熊木眞美子・山本文茂（関東）

小川昌文・篠原秀夫（北陸）、南 曜子（東海）

安田 寛・嶋田由美・若尾 裕（近畿）、小川容子（中国）、田邊 隆（四国）

木村次宏（九州）

【事務局住所】〒184-0015東京都小金井市貫井北町2-5-22ハイッシーダ1-102

【私 書 箱】〒184-8799東京都小金井郵便局私書箱26

Tel/Fax : 042-381-3562 e-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/index.html>

